

祝! 共有船「ひろておん」就航式

2023年2月7日、香川県丸亀港と塩飽(しわく)諸島の広島、手島、小手島の各島を結ぶ備讃フェリー(株)とJRTTとの共有船「ひろておん」が約30名の関係者に見守られ、就航式を迎えました。

船名は公募され、現在、小手島中学校に通うただ一人の生徒と教諭が提案された、広島島の「ひろ」、手島の「て」、小手島の「お」をつなげ、最後に「ん」をつけた「ひろておん」となりました。

本船は、船に乗ってすぐ左側の一階に、車椅子専用の席と広いトイレを設けることにより、足の不自由な方にも使いやすい構造になっております。

本船を運航する備讃フェリー(株)の天野雄二郎社長は、「使い勝手のいい船になっていますので、島の人々も十分にご利用頂ければ」とご説明されていました。

これからもJRTTは離島航路に就航する船舶の建造支援を通じて、離島航路の維持・活性化に貢献してまいります!
(男性記者Tak.S)



就航式は車両甲板で行われました♪



就航式であいさつされる備讃フェリーの天野社長



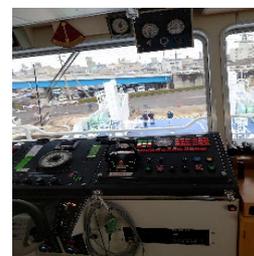
就航式であいさつするJRTT田中審議役



命名者と天野社長



関係者によるテープカット



船のブリッジから的一幕



椅子席・座敷席を備え、様々な需要に応えています



船の主要目表の上にJRTTマーク



丸亀港に停泊中のひろておん



遠くに見えるのは瀬戸大橋

みなとみらい観光案内 VOL 3 ～「横浜税関」編

JRTTの最寄り駅「馬車道駅」のお隣、「日本大通り駅」から徒歩3分の距離にあります「横浜税関」を訪問しました。

横浜税関は、令和4年（2022年）11月28日に150周年を迎えました。

安政6年（1859年）の開港と同時に、長崎、神奈川（横浜）及び箱館（函館）の港に「運上所」が設けられ、運上事務（現在の税関業務）などを取り扱うことになった後、明治5年（1872年）11月28日に「運上所」は、「税関」と呼称が変更されました。（横浜税関の誕生）

横浜税関は「税関」の発足時から、我が国の貿易を支え、経済の健全な発展と安全・安心な国民生活の実現に寄与されています。

今回訪問させて頂きました、横浜税関の本関庁舎は、昭和9年（1934年）に創建されました。横浜港の発展を見守り続けてきた歴史的建造物として、その外観は創建当時の姿のまま保全されています。

建物の最大の特徴となっているイスラム風の塔屋は、クイーンと称され、神奈川県庁本庁舎（キング）、横浜市開港記念会館（ジャック）とともに「横浜三塔」の愛称で親しまれています。

横浜税関では、資料展示室「クイーンのひろば」については無料で見学することができるほか、定期的には本関庁舎を一般向けに公開していますので、みなとみらい観光の機会に併せて、訪問されてはいかがでしょうか？

⇒詳しくは、[こちら](#)

（記者M.H）



横浜税関本関庁舎の「クイーンの塔」と税関イメージキャラクターの「カスタム君」



横浜税関 玄関



7階展望デッキからの風景



横浜税関本関庁舎（クイーン）



神奈川県庁本庁舎（キング）



横浜市開港記念会館（ジャック）



源新税関長（中央）と記念撮影



旧税関長室



横浜税関資料展示室

祝! 共有船「フェリー度島」進水式

2023年3月7日、長崎県平戸港と度島(たくしま)を結ぶ竹山運輸有限会社とJRTTの共有船「フェリー度島」の進水式が、約30名の関係者に見守られながら、長崎市の長崎造船株式会社にて行われました。

竹山運輸とJRTTの関係は長く、50年以上前に「度島丸」を共有建造して以来、共有船舶制度を利用していただいております。本船が5隻目の共有船となります。

本船は島民の方に慣れ親しまれている「第三フェリー度島」と同型船ですが、乳幼児連れで利用できるトイレが新設される他、より一層のバリアフリー化が進んでおり、島民や度島を訪れる方が安心して利用できる船舶となっています。

JRTT公式Twitterでは、進水時の動画を発信しています!
詳しくは、[こちら](#)

(男性記者R.N)



支綱切断は竹山社長とお嬢様



いざ進水!



客室内のJRTTマーク



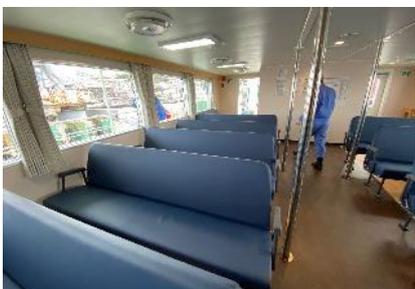
ブリッジ前方をよく見ると…



こんなところにもJRTTマークが!



バリアフリースイートレにはおむつ交換台も完備



客室内の椅子席



広々とした座敷席



オープンデッキの椅子席



8トントラックを4台搭載可能
島民の生活物資を運びます



スロープにより、段差の少ないバリアフリー仕様



長崎造船に停泊中の「フェリー度島」

JRTTからのお知らせ

OJRTTは公式YouTubeチャンネルを開設しています！

JRTTで行っている整備新幹線、都市鉄道、船舶等の貴重な映像も公開しています。是非ご覧ください。

アクセスは https://www.youtube.com/c/jrtt_official

または QR コードよりお願いします。

OJRTTは公式Twitterを開設しています！

Twitterを通じJRTTの様々な情報を発信してまいります。

アクセスは https://twitter.com/JRTT_PR

または QR コードよりお願いします。



船族王子



離島航路姫

YouTube



Twitter



編集担当者のひとりごと

日本郵船、商船三井、川崎汽船が共同出資したシンガポールにあるコンテナ船社の「ONE」は、2年連続、約2兆円の純利益↓を出しており、国内1位のトヨタ自動車に次ぐ利益は衝撃的です。

<https://www.one-line.com/sites/g/files/lnzjqr776/files/2023-01/FY22%203Q%20ONE%202022%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E7%AC%AC3%E5%9B%9B%E5%8D%8A%E6%9C%9F%E6%B1%BA%E7%AE%97%20%28Clean%29.pdf>

この衝撃の事実から、コンテナに興味を持ちまして、マルク・レビンソン著の『コンテナ物語』を読みました。米国でマルコム・マクレーンが発明した海上コンテナと陸上の複合一貫輸送から始まったコンテナリゼーションは、グローバルリゼーションの主要因となったことがよくわかります。

コンテナ輸送により、貨物の破損、盗難、輸送時間の削減によって、物流コストを劇的に下がったことで、生産拠点の国際分散が始まり、世界を変えていったことが、数字を用いて書かれています。

例えば、コンテナ輸送の普及が進むと、物流コストの低減により港で働いていたギャング(貨物船のばら積み荷物を積み卸しする作業員チーム)が不要になり、失業したギャングが存在したこと。港は、コンテナ荷役の支援に必要なガントリークレーンが設置される新港に変わっていく様。

冷凍・冷蔵、液体コンテナの進化などもあり、だれもが予想し得なかったグローバルリゼーションが進展し、日本の高度成長期には、ソニー、松下、東芝、日立などの輸出に大きく貢献し、日本を豊かにしますが、やがて、韓国、中国のメーカーの台頭により日の丸家電が衰退していく様などもわかるおすすめの1冊です。

一方で近年の内航海運は、地方港もガントリークレーンが整備され、海上コンテナと陸上の複合一貫輸送の一翼を担っています。もう一つは、車両を搭載できるカーフェリー、RORO船があります。

これらは内航のコンテナ船と異なり、トラックやトレーラー車両が直接乗り降りできるため、コンテナの積み下ろしに必要なガントリークレーンなどの荷役設備が整っていない港でも荷役可能というメリットがあります。積荷が車両に積まれているため、荷役時間の更なる短縮が可能ですし、内航のコンテナ船より速力があり、目的地までの所要時間が短いため生鮮食品や付加価値のある輸送に適しています。

また、増えるEコマース需要に応えられるコンテナ船、カーフェリー、RORO船は、陸上のトラック輸送に比べCO2の排出量が少なく環境負荷も軽減できますし、また、トラックドライバー不足が危惧される2024年問題の対策として、陸上輸送を海上輸送に切り替えるモーダルシフトにも貢献できます。このような船舶の建造を引き続き当機構は推進します。

(男性記者 T.S)

■本ニュースレターに関するお問合せ先

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 共有船舶企画管理部 企画課

TEL:045-222-9129 Email: ship_pr-b6k3@jrtt.go.jp

※本ニュースレターは2023年3月31日時点の情報を基に作成しています。